

6 学生の自主活動

EMS 学生委員会の活動

環境科学部の環境マネジメントシステム（EMS）に学生の立場から取り組む委員会です。

長崎大環境科学部EMS学生委員会代表
長岡 諭志さん

あの人

省エネ、省資源化に向けた取り組みを体系化した「環境マネジメントシステム（EMS）」を長崎大の学内で取り入れようと活動する学生団体の代表。約二十人のメンバーをまとめる。

学内での消費電力量などを調べ、削減目標を設定して大学側に改善策を提案。「教案、研究室の電気を小まめに消す」「コ

ピー用紙は裏面も利用を」と身近な環境改善を呼び掛ける。取り組みや提言を冊子にまとめ、大学側や学生に配布した。

同大環境科学部三年。講義を通じ環境問題に関心を持ち、一昨年秋ごろから活動に参加。「学生は普段、大学のことにかかわる機会が少ないので、学内全体の環境改善の取り組みを考えるのは楽しい」。昨年四月から代表。自立つことが好きな方ではないが「自分を変えたい」と代表に名乗り出た。同十一月には九州・山口県の六大学がEMS活動を報告するシンポジウムを長崎大で開くなど精力的。他大学の学生との間に交流も生まれ「出会いも楽しみの一つ」という。長崎市橋口町に家族五人暮らし。二十二歳。

学内の省エネに懸命

2008年1月22日 長崎新聞



環境科学部発の全学サークル

っじゃすみん

サークル全体で行う活動は3月末から4月初めにかけてあるリサイクル市というイベントなどを行っており、さらに大学生主催の環境イベントなど、自分が興味を持った活動にそれぞれが参加しているそうです。

実演楽しみ環境啓発 長崎市で街頭 キャンペーン

「環境の日」(5日)を前に、環境問題への意識を高めてもらうための街頭キャンペーンが2日、長崎市中心部のペルナード観光通りであり、環境に関する各種の実演コーナーや展示があった。

民間団体や長崎大の学生サークルなど17団体が参加し、テーマ別にポスターを設けた。長崎大教養学部系山研究室のブースでは、子どもたちが学生に教わり、使い古しの割りばしを使って紙飛行機作りに挑戦。長崎市江川町、会社員、岩崎武史さん(94)は、製作に夢中の小学4年生の長崎県若菜(わか)の姿を笑ながら「環境悪化の問題を考える」と、子どもたちの将来のために出来ることはやらないければ」と話した。

民間団体「生々みシェイパース」は生々みを堆肥化させる「ほかし」作りを講演。買い物客らが完成したほかしをビニール袋に入れ持ち帰った。長崎大の環境サークル「つじやすみん」は環境にちなんだクイズコーナーを設け、親子連れがゲーム感覚で挑戦。同大2年、佐藤敬史さん(19)は「子どもが環境に関心を持つには、朝にも広がる」と話した。

キャンペーンは朝と長崎市が6月の環境月間にちなんで10年から開催している。【宮下正己】



ゲーム感覚でこみ分けクイズを楽しむ子どもたち

2007年6月3日 毎日新聞

長崎大学環境報告書2006への 学生からの声

環境関係の講義で、長崎大学環境報告書を配布し、意見を記述してもらいました。大部分の学生が、大学の環境配慮に対する活動内容を、知ることができたという感想を述べていましたが、いくつか大変、建設的な提言もあり、ここに、その一部を要約して紹介します。また、そのうち、幾つかの意見は、本書に、すでに反映させています。

コピー用紙の削減が不徹底である。学問の場において本当に必要な資料等を削減する必要は無いと思うが、年度始めの配布物には、不要なものも見受けられる。また、コピー用紙の用途を明確にすることも必要でないかと思う。

学生は、大学で学ぶことが主体である。節約のあまり、学問の場を縮小していないか検討の必要がある。土日の図書館の開館時間が短いのは、エネルギー節約のためだろうか。

特定調達品目調達実績など、どういう趣旨のデータなのかわかりにくいので、もう少し、詳しい説明が欲しい。

環境配慮が、まだ、大学全体で取り組んでいるという実感がない。

環境配慮の方針、環境報告書が、あまり知られていない。HP や冊子だけでなく、講義や学生のオリエンテーションでも紹介すべきである。

シラバスを記載しても、あまり意味が無いように思う。環境教育活動については、もう少し、興味が持てるよう工夫が欲しい。他の記事では、文章と写真等をいれて、読者のことを考えているが、そのバランスは重要と感じる。

メリットや見返りがなければ、人はなかなか動かない。環境問題も同様、エコはエコロジーのエコであるばかりでなく、エコノミーのエコでもある。シラバスをもう少し減らすべきである。コピー用紙削減よりも先決である。

如何に法令を遵守しているかを、もう少し、地域に公言すべきである。

長崎大学には環境を考えている学生サークルが多くある。そのような学生が考えている環境への取り組みに興味を持ち、もっと支援してもらえたら、様々な環境へのアプローチができるのではないかと思う。